

【不適合工事防止のためのチェックシート】

工 種	チェック	チェック内容	具体的な対応
共 通	<input type="checkbox"/>	「 <u>検査日前日には現場を確認</u> 」 しましたか？	現場の状態が変わっていることがあるので、 <u>検査日前日は必ず現場を確認し、不具合等があった場合は速やかに対応</u> してください。
	<input type="checkbox"/>	「 <u>検査時の検測機械</u> 」は予備の機械も準備しましたか？	<u>機械の不具合</u> により正確な数値が確認できず <u>不適合となる場合がある</u> ので、念のため <u>予備の機械を準備</u> しておいてください。
	<input type="checkbox"/>	「 <u>出来形管理</u> 」「 <u>品質管理</u> 」の結果資料は漏れなく揃っていますか？	<u>不可視部分の「出来形管理」、「品質管理」が最終的に確認できない場合は不適合</u> となります。漏れなく揃っているか、検査前までに <u>共通仕様書や施工計画書（施工管理計画）</u> などと対比し確認しておいてください。
道路 (土工)	<input type="checkbox"/>	「 <u>路体盛土工・路床盛土工の現場密度試験の実施頻度</u> 」は間違いないですか？	<u>路体盛土工・路床盛土工の現場密度試験は、施工土量が路体5,000・路床1,500㎡未満の場合は3回以上実施</u> して下さい。（※1回の試験につき3孔で測定し、 <u>3孔の最低値で判断</u> ）
道路 (土工)	<input type="checkbox"/>	「 <u>路盤工の現場密度試験の実施頻度</u> 」は間違いないですか？	<u>路盤工の現場密度試験は、下層路盤・上層路盤毎に施工面積が1,000～3,000㎡の場合は、3回(孔)実施</u> して下さい。
道路 (舗装工)	<input type="checkbox"/>	「 <u>A s 舗装工の現場密度試験の実施頻度</u> 」は間違いないですか？	<u>A s 舗装工の現場密度試験は、表層・基層毎に施工面積が1,000～3,000㎡の場合は、3回ずつ実施</u> して下さい。
道路 (側溝工)	<input type="checkbox"/>	「 <u>側溝工の延長</u> 」は中心部で管理していますか？	<u>曲線区間の延長は左右で異なるため、短い方の延長で管理</u> すると出来形不足で不適合になるおそれがあります。
河川 (護岸工) (法枠工) (擁壁工)	<input type="checkbox"/>	「 <u>コンクリートの圧縮強度試験</u> 」は1日1回以上、20～150㎡ごとに1回実施していますか？ (※小規模工種で1工種当りの使用量が50㎡未満の場合は、1工種1回以上の試験、または工場の品質証明書のみとすることができます)	<u>場所打コンクリートによる擁壁工(高さ1m以上)、コンクリート張護岸工、法枠護岸工や高さ1m以上の擁壁工のコンクリート圧縮強度試験は、50㎡未満でも小規模工事に該当しないため、1日1回以上又は20～150㎡ごとに供試体を採取して下さい。</u> ※プレキャストのコンクリートブロック積(張)工は除く。
対象となる コンクリート 構造物	<input type="checkbox"/>	「 <u>コンクリートの圧縮強度試験</u> 」は28日強度試験を実施し、規定の強度を確認していますか？	<u>コンクリート圧縮強度は、推定式による強度の確認は認められていないため、28日強度の確認が困難な場合は発注者と協議</u> してください。 <u>協議していない場合は不適合工事</u> になります。
対象となる コンクリート 構造物 (重要構造物)	<input type="checkbox"/>	<u>クラックの最大ひび割れ幅は0.2mm以上</u> となっていませんか？（水密性を要求される場合は0.05mm）	<u>重要構造物(高さ5m以上の鉄筋コンクリート擁壁、内空断面が25㎡以上の鉄筋コンクリートカルバート類、橋梁上・下部工、トンネル、高さ3m以上の堰・水門・樋門・砂防ダム、スノーシェッド・スノーシェルター、ロックシェッド)</u> においては、「 <u>ひび割れ発生状況調査要領</u> 」に基づき調査を実施し、 <u>調査結果を監督員に提出</u> してください。